



古々
音西

費向五石題

秋



發句五百題 目錄秋之部

八月

八	初秋	新涼	解
秋	初秋	初涼	編素
南力	露	霧	花火
雀塔	秋風	初月	數柳
一葉	露	萩女	男了
藤袴	夕風	萩の花	西瓜
葛の衣	紫菀	桔梗	地榆
編の衣	芭蕉	萩	知沙

月	放生会	山系	唐辛子	鴨	秋の蛸	いし	秋の蝶	引板
十六夜	司呂	系瓜	瓢	鰯	蜻蛉	蜻蛉	桑山子	
竹筒月	釣虫	菱蔘	柿のつゝ	鰯	蟻	蟻	添水	
星月夜	芒	鬼灯	蛸吹	虫	蟻	蟻	巧子	

九月

福	かきや	芋の茎	秋の葉	苗	動学舎	牛梨	や	厚	葉
木槿	紫苑	花野	若の草	天瓜	後能	升の布	後の白	液り厚	福
野菊	金鈴子	鶉	蓬の草	苎	穴狭糸	秋	井の春	採	宣
尾花	蔓草	厚赤紅	夕	聖	芒蔘	秋	店	早	秋

○秋

二

新 孫

菊

木の葉

新 酒

秋の 帳

道の 華入

空 雲 葉

秋 枝 岸

高 雲

秋 雲 高

十月

菊

紅 菊

鏡 田 娘

菊 の 花

末 枯

冬 之 心 枯

新 枝 枯

新 枝 枯

初 娃

新 枝 枯

紅 菊 附

菊 附

菊 葉

木 葉 香

枝 枯

秋 枝 枯

栗

栗 葉

新 豆

栗 葉

栗 種

栗 種 心

干 栗

栗 種

麻

麻

柿 葉

柿 葉 心

増 名 院

み づ う ん

高 木 心

秋 の 心

秋 の 雲

秋 の 雨

秋 の 暮

秋 の 雨

高 雲

高 雲

新 秋

秋 の 暮

十月

目錄終

發句五百題 秋之部

其角堂永機

編

雪中庵梅年

鮮齋永濯

畫

八月之部

八朔

八朔や梅一日んのみさるる

尚九

初秋

八朔や梅さるる梅さるる

三十代

初秋と梅さるる梅さるる

詢菴齋

針さるる梅さるる梅さるる

雪菴

冬さるる梅さるる梅さるる

蓮州

冬さるる梅さるる梅さるる

全

○秋

曉也秋立雨の初也 夏風
初秋の二日通る 森さる見
この秋やまの初也 遊り 鮭
初秋やまの初也 風めい
虎子見り初也 虎の秋
初秋や吹也 虎の秋 初秋
初秋や耳鳴る 中の 初秋
眉中の初也 秋のまみり
この秋も 菊の初也
初秋の初也 人の初也
初秋の初也 人の初也

竹 詞
梅 雅
聽 雨
可 朝
琴 颯
荷 章
如 山
竹 葉
花 夕
花 庭
素 直
螢 所

シニツ

江シカ

西京

今秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也
初秋の初也 秋の初也

敏 樹
霞 汀
壬 齋
思 文
有 川
霞 香 女
可 洗
素 陽
雪 叢
其 石
梨 雪

秋とついでに... 夕陽の秋... 初秋の青... 夕陽の秋... 明け島の秋... 藤の秋...

三千代 全 犁春 松雨 梅仙 可金 喜延 花月 全 全 一 完 大 鷗

新

残

秋とついでに... 夕陽の秋... 初秋の青... 夕陽の秋... 明け島の秋... 藤の秋... 藤の秋... 藤の秋... 藤の秋... 藤の秋...

旭の本 晴雲 梅年 竹哥 永機 花晴 素柳 素石 誦莖齋 機春 蓮州 驚朝

初巻

飛鶴岩の日の暮るくくく
水多任の晴く暮るくく
五言の夕夕夕夕
秋暮の夕夕夕夕
秋の夕夕夕夕夕
秋の夕夕夕夕夕
秋の夕夕夕夕夕
秋の夕夕夕夕夕
秋の夕夕夕夕夕
秋の夕夕夕夕夕

梅宿 善秀 梅雅 倭草 可金 莞好 聖潮 古梅 涼風 聽松 碧海 梅年

初巻

編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕
編妻の夕夕夕夕

吏登 素青 一雄 朝暉 松月 素石 花林 芳盛 機月 芦洲 一大 二熊

相撲

稽古也と云ふは、八月、室の軒
 稽古也と云ふは、中の室の座木
 稽古也と云ふは、木を三つに
 稽古也と云ふは、清く行
 稽古也と云ふは、清く行
 稽古也と云ふは、清く行
 稽古也と云ふは、清く行
 稽古也と云ふは、清く行
 稽古也と云ふは、清く行

晋泉 如竹 和鶴 聖朗 三芝 螢所 保年 素朴 竹堂 春湖 月得

露

露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か
 露の斜りては、南力か

鬼笑 霞流 北翠 一水 應波 永機 醉雨 醉甫 鳳齋 乙義 晚香 古梁

○秋

露の身は露と云ふは夕ア
 野の草は露の露の露の露
 葉の葉は別な秋の露の秋
 花の葉は露の露の露の露
 白の露は露の露の露の露
 葉の露は露の露の露の露
 白の露は露の露の露の露
 葉の露は露の露の露の露
 甲の露は露の露の露の露
 葉の露は露の露の露の露
 露の露は露の露の露の露
 露の露は露の露の露の露

萃節 可堂 機春 喜延 竹詩 二木 壽谷 左丈 一琴 孤月 梅宿

露の身は露と云ふは夕ア
 野の草は露の露の露の露
 葉の葉は別な秋の露の秋
 花の葉は露の露の露の露
 白の露は露の露の露の露
 葉の露は露の露の露の露
 白の露は露の露の露の露
 葉の露は露の露の露の露
 甲の露は露の露の露の露
 葉の露は露の露の露の露
 露の露は露の露の露の露
 露の露は露の露の露の露

如牛 霞汀 桃年 芳林 山水 鳳樓 鳥牙 淡水 芥刪 方水 川漲 一

本務
 ○秋

○秋



雀拾々
あり

七

秋
心

雀拾々
あり

花
火

秋心
 雀拾々あり
 花火
 秋風も涼しくなりぬるる
 夕陽の光もや柔らかな
 空の青もさびやかな
 水も清く流るる
 鳥も鳴く声も
 静かなる
 秋の心
 雀拾々あり

松雨
 石哉
 永機
 抱清
 文岱
 梨雪
 尚九
 善秀
 鶯雨
 竹菫
 袖丸
 醉甫

第持袖下 是也 是秋の風
秋の風は 清く 涼しく 爽やかに
秋の風は 山を 越えて 谷間に
秋の風は 木々を 揺らめかせ
秋の風は 川を 流れて 海へ
秋の風は 空を 舞って 大地へ
秋の風は 人々の 心へ 届いて
秋の風は 年の 暮れを 告げる
秋の風は 母の 懐を 思わせる
秋の風は 朝の 光を 待つ
秋の風は 夕の 霞を 染める
秋の風は 白く 静かに 吹く

一鼎
予雲
雲朗
不尤
可洗
此鼎
竹堂
九岳
敏樹
左文
壯山
思文

秋の風は 花の 香りを 運ぶ
秋の風は 葉の 音を 奏でる
秋の風は 空の 雲を 吹散
秋の風は 川を 清く 流す
秋の風は 山を 高く 吹上げる
秋の風は 木々の 葉を 揺らす
秋の風は 人々の 心を 清く する
秋の風は 年の 暮れを 告げる
秋の風は 母の 懐を 思わせる
秋の風は 朝の 光を 待つ
秋の風は 夕の 霞を 染める
秋の風は 白く 静かに 吹く

桃年
花月
素直
竹香
梅仙
吏中
柳僊
猶蟻
青山
連鳥
藹村

○秋

豊島浦

八

初月

初月也後月也
山里也中里也
初月也清光也
初月也水也
初月也水也
初月也水也
初月也水也
初月也水也
初月也水也
初月也水也

梅年 士朗 機一 鳳樓 一水 蓮州 永機 山朗 一聲 芝水 花庭 花晴

初月

一葉

一葉也
初月也
初月也
初月也
初月也
初月也
初月也
初月也
初月也
初月也

碧海 羽洲 梅年 一聲 大喬 晴月 竹諺 貞賀 此鼎 言海 琴松 梨雪

葦

秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は
秋の夕子先見の相の一葉は

浪花

三奏 鳳州 潮水 快雅 孤松 可金 三猿 鷺朝 聽雨 羽洲 淡水 古杉

山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛
山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛

筑三池

山蕎 芝水 如牛 霞流 舞中 巨石 梅仙 蓮州 機月 收水 芦洲 暮牛

萩

萩の菅にふりまきくさの露
萩の穂も穂の穂も吹のちり
萩の穂も穂の穂も吹のちり
萩の穂も穂の穂も吹のちり
萩の穂も穂の穂も吹のちり
萩の穂も穂の穂も吹のちり
萩の穂も穂の穂も吹のちり
萩の穂も穂の穂も吹のちり
萩の穂も穂の穂も吹のちり
萩の穂も穂の穂も吹のちり

三良 倭草 鳥牙 禾豐 梅誓 猶蟻 有川 梅年 永機 默平 雪窟 半山

山サシ

二度と見ゆる萩の菅も菅も萩
菅生に掃丈あつち萩のち
吹抜も萩のちあはれちあ
萩のちあはれちあはれちあ
萩のちあはれちあはれちあ
萩のちあはれちあはれちあ
萩のちあはれちあはれちあ
萩のちあはれちあはれちあ
萩のちあはれちあはれちあ
萩のちあはれちあはれちあ

竹葉 聽雨 青曉 竹詞 素直 花晴 左丈 守水 芥刪 快雅 竹堂 菟好

清川 何の門は二之軒
 中道合と解るる教皇世新代
 素石の露や空の霞の影
 大橋の露や空の霞の影
 完鷗の露や空の霞の影
 三痴の露や空の霞の影
 龍吟の露や空の霞の影
 木寶の露や空の霞の影
 此鼎の露や空の霞の影
 竹香の露や空の霞の影

女市子

清川
 青山
 方水
 素石
 大喬
 完鷗
 三痴
 龍吟
 木寶
 機春
 此鼎
 竹香

清川 何の門は二之軒
 中道合と解るる教皇世新代
 素石の露や空の霞の影
 大橋の露や空の霞の影
 完鷗の露や空の霞の影
 三痴の露や空の霞の影
 龍吟の露や空の霞の影
 木寶の露や空の霞の影
 此鼎の露や空の霞の影
 竹香の露や空の霞の影

男通

清川
 喜寶
 霞香女
 竹苗
 來杖
 竹堂
 護靜
 才雄
 素石
 機一
 靜和
 永機

藤袴
矢花
蓼の草
西瓜
葛の花
紫蘿
桔梗

此に咲く似藤ありきう久藤袴
 走りて其に桔梗先たり矢花
 二鐘の十歩を去る蓼の草
 伏せ庭の傍に咲く紫咲蓼の草
 葉の草をゆく此や蓼の草
 西瓜一つの牛に反きて居る
 西瓜切る供の二反や桔梗
 桔梗更に出るうろ黒く西瓜
 の味を此に知るうろ西瓜
 蔓の汗の山の草も葛の花
 紫蘿畑の草も此も小梅村
 引裂きしるるも桔梗の蓼

碧海
矢竹
燕村
完鷗
百汲
然々
三千代
梨雪
方水
貞雄
涼坪
琢我

地榆

雨より之を好むもの桔梗の
 咲きし日の草も此も地榆
 立机

雪蓼
淡水
覺齋

綿の花

七多花六多に居る、我亦
 綿の花は、此の白もよ
 於よきや西の玉も、綿の
 葉の中は、綿の葉の中
 雨降の空に於て、綿の
 花の草も、この花は、綿の
 花の草も、この花は、綿の
 花の草も、この花は、綿の

正義
白雄
黙平
三猿
逸風
花晴
雪蓼
霞流

芭蕉

秋の月やあけの空を照らす梅の枝
 ちかちかたる月影を照らす梅の枝
 さのちかちかたる月影を照らす梅の枝
 さのちかちかたる月影を照らす梅の枝
 川原の清い水に映る梅の枝
 庭の町に梅の影を照らす梅の枝
 月の影を照らす梅の枝
 初日の光を照らす梅の枝
 十五夜の光を照らす梅の枝
 月影を照らす梅の枝
 月影を照らす梅の枝
 月影を照らす梅の枝

梅枝 聽雨 梅年 連水 雪蓑 素陽 千里 永機 詢美齋 方水 貞砂 全

秋 初日 月

秋の月やあけの空を照らす梅の枝
 ちかちかたる月影を照らす梅の枝
 さのちかちかたる月影を照らす梅の枝
 さのちかちかたる月影を照らす梅の枝
 川原の清い水に映る梅の枝
 庭の町に梅の影を照らす梅の枝
 月の影を照らす梅の枝
 初日の光を照らす梅の枝
 十五夜の光を照らす梅の枝
 月影を照らす梅の枝
 月影を照らす梅の枝
 月影を照らす梅の枝

全 三 猿 一 大 思 文 雪 磨 霞 流 貞 山 梅 朋 吳 仙 雲 臺 五 秀 碧 海

夕の光を動く月の影 月の光
 空の月や井の底に降る月の影
 無の空に光る月の影 月の影
 名月の影も好む月影 月の影
 月影の影も好む月影 月の影
 秋の月影も好む月影 月の影
 母の月影も好む月影 月の影
 舟人の月影も好む月影 月の影
 名月の影も好む月影 月の影

登龍 聖風 千里 奇英 遠塵 機一 鳥牙 鷺朝 如竹 素直 霞汀 淡水

夕の光を動く月の影 月の光
 川流の影も好む月影 月の影
 舟人の月影も好む月影 月の影
 名月の影も好む月影 月の影
 秋の月影も好む月影 月の影
 母の月影も好む月影 月の影
 舟人の月影も好む月影 月の影
 名月の影も好む月影 月の影

鳥牙 竹苗 山水 秋外 芦洲 機月 花庭 蓮州 全

田中より来りて人々をくろく月の
 こよみは月夜の中、秋の月
 月の出やまに際、野の草の
 うちけりて、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月

蓮州
 木寶
 巨石
 聽雨
 如塵
 左丈
 仝
 孝粒
 花田
 花夕
 嵐童
 青曉

晴を越え、世の事や、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月
 月夜の中、草の影も、秋の月

逸風
 一水
 松翠
 芦洲
 予雲
 花庭
 梅仙
 正義
 花朝女
 雲臺
 永機



救世舎

眼の命くまの保身術

梨雲

○秋

十七

十三表

御行月
聖自來
救世舎

名有や思ふも人のまのり一考
 取中んやまのりや片や月のま
 明自や前あうしと人のまのり
 影もまのりや一表月めま
 院やまのりや一説とま一人
 ひとまのりや一説とま一人
 院中やまのりや一説とま一人
 ひとまのりや一説とま一人
 輝杭州行自や一説とま一人
 出るまのりや一説とま一人
 救世舎は衣袋川に自來と
 能くまのりや一説とま一人

大喬
 百汲
 龍吟
 梅年
 敏樹
 知雪
 其仙
 花朝女
 雲主
 取水
 白雄
 千里

目
湯

湯の湯人の中の一也
湯の湯年数経たず
湯の湯中一くう
湯の湯子道坂山
湯の湯の層奔の中
湯の湯中自黄口山
湯の湯中一人のり
湯の湯の湯の湯
湯の湯の湯の湯
湯の湯の湯の湯
湯の湯の湯の湯
湯の湯の湯の湯
湯の湯の湯の湯

樂成 袖丸 巨石 涼風 螢所 樂成 涼風 蓮州 其仙 柳僊 朝暉 芥刪

湯

淡 水
魯 水
華 谷
花 庭
北 翠
奇 英
牧 水
步 月
雲 臺
文 岱
連 鳥
永 機

○ 秋

十八



みき山家

鳥 瓜

鳥の舌と瓜のくさやうを瓜に
 瓜のくさやうを瓜に瓜のくさやうを

巢 兆

ハるる舌の瓜を瓜のくさやうを瓜に

春 湖

芙蓉

十の瓜のくさやうを瓜のくさやうを
 一瓜のくさやうを瓜のくさやうを

枝 玉 女

梅 宿

月より瓜のくさやうを瓜のくさやうを

ちとせん

秋より瓜のくさやうを瓜のくさやうを

千 里

夏より瓜のくさやうを瓜のくさやうを

梅 年

一の瓜のくさやうを瓜のくさやうを

永 機

鬼 灯

鬼灯のくさやうを瓜のくさやうを

晴窓

湖 十

産 年

産年のくさやうを瓜のくさやうを

抱 清

西の瓜のくさやうを瓜のくさやうを

素 石

歌

花より
花

連水
敏樹
壯山
國外
荒好
雲潮
夢太
言海
文路
護靜
正義
一大

花より
花

歌

歌

永機
梨雪
三猿
可洗
一遊
秋丸
喜延
花月
雲雀
詢光齋
花月
梅宿

永機
梨雪
三猿
可洗
一遊
秋丸
喜延
花月
雲雀
詢光齋
花月
梅宿

五燈子夜安、うけく、
多し、
峰、
り、
者、
紫、
雲、
紫、
錦、
出

詢堯齋
荷章
碧海
三芝
猶蟻
醉甫
永機
茶城
素柳
雲臺
錦車
朝暉

三州

人、
本、
古、
竹、
細、
出、
於、
中、
花、
花、
二、
清、
晴

聽雨
貞砂
和鶴
蓮州
快雅
山邦
松月
花庭
花晴
二樵
清川
晴雲

雪 雀
 月 得
 詢 藁 齋
 機 春
 曉 柳
 正 義
 竹 葉
 左 丈
 鷺 朝
 鳳 二
 半 山
 等 裁

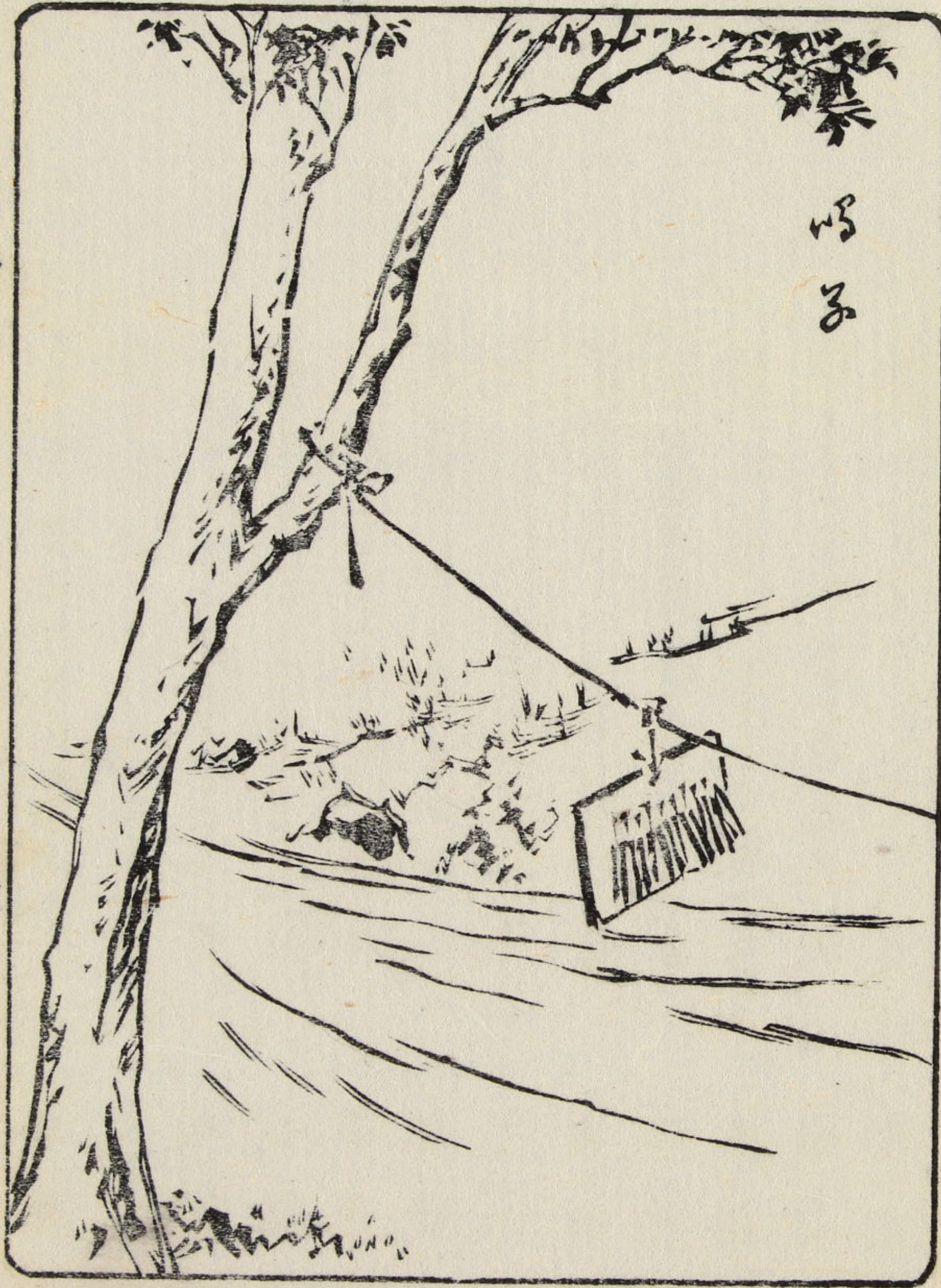
杜の魂

晴 玲

光 玉
 素 石
 菟 好
 成 雅
 兔 月
 竹 香
 正 義
 魯 水
 吏 登
 素 青
 言 海
 思 文

秋の魂長くききまの庭うら
 生翠杜夕の白ひ窓秋の魂
 晴玲の依やゆらぐ 秋の魂
 へお月 泣ききりも 晴玲の
 水際へ赤きいきりも 晴玲の
 言より 夕の法も 晴玲の
 空の目も 夕の法も 晴玲の
 晴玲の依やゆらぐ 秋の魂
 冬息あひ赤きいきりも 晴玲の
 春息あひ赤きいきりも 晴玲の
 二つとも 夕の法も 晴玲の
 思ふ秋の依やゆらぐ 秋の魂

光 玉
 素 石
 菟 好
 成 雅
 兔 月
 竹 香
 正 義
 魯 水
 吏 登
 素 青
 言 海
 思 文



鳴子

○秋

二十四

秋の輝

町々秋の輝の光りや 秋の輝
 舟の影にささるに鳴子 秋の輝
 つまらぬは舟の影の光り 秋の輝
 上も下も秋の輝の光り
 舟の影にささるに鳴子 秋の輝
 素石の光り 秋の輝
 言海の光り 秋の輝
 護静の光り 秋の輝
 霞汀の光り 秋の輝
 永機の光り 秋の輝
 秋九の光り 秋の輝
 三千代の光り 秋の輝

素山子
 源水

鳴子

逸風
 柳子
 枝五
 梅年
 三奏
 素石
 言海
 護静
 霞汀
 永機
 秋九
 三千代

引板

風の静い夕にほたるの光り
引板の人の静けさ
物言はぬ人の心
小夜更の光り
引板の人の静けさ

雪朗
霞香女
此鼎
快雅
螢花
永機

箱

箱の四角の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ

左岳
思雪
大喬
猶蟻
素直

本権

箱の四角の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ
箱の人の静けさ

壽女
指直
古遊
九岳
愈喜
大喬
才の雄
清川
梅宿
羊山
鷺朝
雪磨

芙蓉



野菊

野菊は花も木枯れつゝささくも
 此の山に生るる花はささくも

文岱
 花晴

尾花

尾花は花も木枯れつゝささくも
 引舟の尾花はささくも
 上つ舟の尾花はささくも
 雀麦とまきとの花はささくも

蓮州
 受周
 永機
 關更

かき

菊根

かきかき 俗に菊根はささくも
 加ふるや月見の夕庵の菊根

蓮州
 全

紫苑

本所の紫苑はささくも
 大空の紫苑はささくも
 かきかき 俗に紫苑はささくも

詢善齋
 乙二
 梅年

大
 半
 山
 永
 機
 玉
 馬
 松
 月
 素
 石
 舞
 巾
 孝
 節
 英
 齋
 五
 休
 梅
 仙
 此
 鼎

秋のついでに
 りのあつた秋のついでに
 大なる秋のついでに
 名月春の似古の秋のついでに
 常磐木の本葉のついでに
 野に咲く秋のついでに
 任むるの秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに

三
 芝
 其
 石
 可
 金
 樂
 成
 且
 香
 朝
 暉
 真
 海
 默
 平
 矢
 竹
 旦
 香
 柳
 居
 涼
 坪

藤山月
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに
 秋のついでに

牛乳



秋

秋のや 枯葉の 小川に 流るる
 秋のや 煙の 小川に 流るる
 秋のや 霧の 小川に 流るる
 秋のや 露の 小川に 流るる
 秋のや 霜の 小川に 流るる
 秋のや 雪の 小川に 流るる
 秋のや 氷の 小川に 流るる
 秋のや 春の 小川に 流るる
 秋のや 夏 小川に 流るる
 秋のや 秋 小川に 流るる
 秋のや 冬 小川に 流るる

静 和 興 仙 牧 水 朝 暉 梨 雲 芳 盛 半 山 巨 石 山 邦 守 水 如 竹 竹 香

昔の心持は春の暮の心持の如く竹のま
 成るに如く春の暮の心持の如く竹のま
 昔の心持は春の暮の心持の如く竹のま
 成るに如く春の暮の心持の如く竹のま
 昔の心持は春の暮の心持の如く竹のま
 成るに如く春の暮の心持の如く竹のま

左文
 梅仙
 可金
 可尊
 月池
 抱清
 晋水
 青山
 其仙
 淡水
 奇英
 紅蝶女

昔の心持は春の暮の心持の如く竹のま
 成るに如く春の暮の心持の如く竹のま
 昔の心持は春の暮の心持の如く竹のま
 成るに如く春の暮の心持の如く竹のま
 昔の心持は春の暮の心持の如く竹のま
 成るに如く春の暮の心持の如く竹のま

松月
 竹苗
 魯水
 花庭
 九岳
 雪襄
 可洗
 左丈
 此山
 花弟
 梨雪
 永機

雅

身を清の行儀見習ふ
如月とて清く
松の葉も清く
丁の梅も清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く

抱清 塵風 真海 如竹 不尤 荷草 震谷 逸風 可朝 里發 可洗 曉柳

清く清く

丁の梅も清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く
清く清く清く

花房女 了了 醉甫 六川 花林 大喬 宇の雄 稻處 梨雪 梅州 山水 護靜

〇秋

送の峰入

至聖堂

秋徳斎

扁 魚

重國扁

都のりる月の夜もや秋の懐
故の夢の尾末に似たり春の色
明く秋の夜もくまき 送の峰
筆入や秋の夜も 貝の音
玉串に昔哉 海も 白 鏡 家
そさや 至聖堂 國の徳もつり
そささう 庭 種 松の 秋 徳 斎
くわきを 重國 扁 魚 扁 魚
けい 其 ぬり 秋 徳 斎 扁 魚 丸
いつ 重國 扁 魚 扁 魚 扁 魚 扁 魚
水の月もくまき 扁 魚 扁 魚 扁 魚

十月三日

青我 悟秋 永機 梅宿 默平 蓮州 碧海 完鷗 鶯雨 山邦 秋九

菊

くわきを 重國 扁 魚 扁 魚 扁 魚
昔の 秋 徳 斎 扁 魚 扁 魚 扁 魚
日の白の 重國 扁 魚 扁 魚 扁 魚
菊の 重國 扁 魚 扁 魚 扁 魚
左の 重國 扁 魚 扁 魚 扁 魚
右の 重國 扁 魚 扁 魚 扁 魚
上 廿
下 廿

花朝女 孤月 貞砂 正童 左丈 蟻城 荷章 竹堂 逸風 晚翠 倭草 雨石

○秋

三十五



初陸

〇秋

三十八

未枯

五言五律 雲をたづみ 蘭の夕アハ

未枯也 魚おに 今もさるは 五言

未枯や おりもさるは 五言 五言

未枯や 歩けり 八言 五言 五言

春之田村

春之田村 今もさるは 五言 五言

秋の世より 今もさるは 五言 五言

結 藤

結 藤 中 今もさるは 五言 五言

石橋山

結 藤 中 今もさるは 五言 五言

暮水

暮水 今もさるは 五言 五言

樹の影も 今もさるは 五言 五言

暮水 今もさるは 五言 五言

永機

蟻城

言海

舞巾

嘯月

琴颯

花弟

永機

蓼太

連水

醉甫

蜀 桑

漢蜀の桑のまじりや錦時
水筋のまじりや蜀も桑
月影の蜀も桑の桑の上
木岷の桑の桑の桑の上
岷木の桑の桑の桑の上

蓮州
連水
永機
雪潮
三猿

本岷

回文

岷木の桑は錦の錦の錦の時
桑の上の桑の上の桑の上
向桑の上の桑の上の桑の上
流の桑の上の桑の上の桑の上
岷木の桑の上の桑の上の桑の上
過の桑の上の桑の上の桑の上

凡子
鼠肝
宜得
舞巾
云亭
永機

精

秋 芥子

芥子
秋の芥子の芥子の芥子の芥子
秋の芥子の芥子の芥子の芥子
秋の芥子の芥子の芥子の芥子
秋の芥子の芥子の芥子の芥子
秋の芥子の芥子の芥子の芥子

碧海

粟

葡萄

粟
葡萄
粟の粟の粟の粟の粟の粟
葡萄の葡萄の葡萄の葡萄の葡萄
粟の粟の粟の粟の粟の粟
葡萄の葡萄の葡萄の葡萄の葡萄
粟の粟の粟の粟の粟の粟
葡萄の葡萄の葡萄の葡萄の葡萄

蓮州
花夕
護物
不尤
永機
鼠肝
猶蟻
大喬
袖丸
晋水

新豆

標

○秋

四十

テラコ

藤

藤山月夜思
藤山月夜思
藤山月夜思
藤山月夜思
藤山月夜思
藤山月夜思
藤山月夜思
藤山月夜思
藤山月夜思
藤山月夜思

荷章
花夕
一水
全
左丈
柳子
國外
梅年
薰
松月
羊山
永機

粟穂

とばの糸

千糸

茶壺

粟穂
千糸
茶壺
茶壺
茶壺
茶壺
茶壺
茶壺
茶壺
茶壺

永機
子
曉臺
蓼太
静和
永機
梅年
雪潮
吏中
白雄
梅年
其石

茶畑



霧

霧を川を流るる鳥うら

連鳥

袖

夕落の霞に花散るる

連水

雪

小法師の碁を打つ袖

可金

松

秋の夕暮の松の影

螢花

雲

秋の夕暮の雲の影

雪湖

名

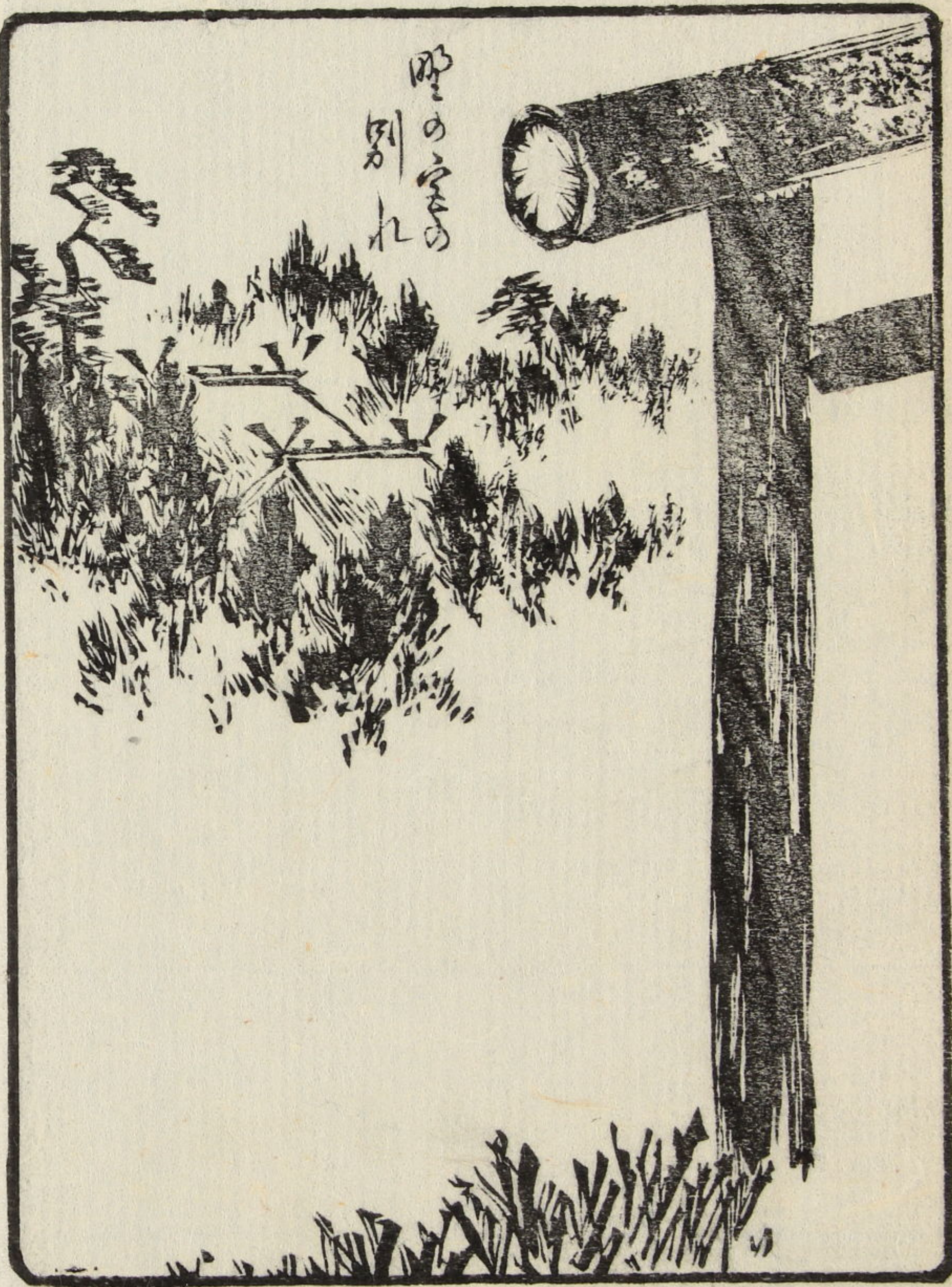
秋の夕暮の名の影

永機

秋

秋の夕暮の秋の影

五休



那の空の
別れ

秋の空

酒人伝説のそとに秋の空

碧海

秋の雨

夕暮の時に雨は似たり秋の雨

蒹葭

只さこの日暮るまで秋の雨

螢所

秋の雨は静かに降る

如牛

秋の暮

静かに暮る秋の暮

静和

秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに

静和
連鳥
玉馬
華谷
芦洲
貞山
雪襄
桃年
奇英
古杉
真海
秋丸

秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに
秋の静和を思ふに

一大
遊甫
云亭
几子
清川
大喬
抱清
蓮州
全
碧海
梅年
予雲

霞香女
 古梁
 涼風
 蓮州
 其仙
 善秀
 不尤
 此鼎
 指直
 連鳥
 池月
 ころら

長

霞香女や雀の料の常ははる
 古の巻に巻くころ秋の雲
 けのよは葉の影を流す秋の雲
 水雲やまの葉影の影の影
 水雲やまの葉影の影の影
 水雲やまの葉影の影の影
 水雲やまの葉影の影の影
 水雲やまの葉影の影の影
 水雲やまの葉影の影の影

新秋

竹
 松翠
 云亭
 五遊
 竺仙
 素直
 米華
 醉甫
 唇風
 清川
 素青

新秋の秋のり方ころはつ
 新秋のり方ころはつ
 新秋のり方ころはつ
 新秋のり方ころはつ
 新秋のり方ころはつ
 新秋のり方ころはつ
 新秋のり方ころはつ
 新秋のり方ころはつ
 新秋のり方ころはつ

エナコ

秋

鴻持の国もこの日あり九月を
秋のあはれを言ふ元香尺冊子藝
美多秋秋の山根中もこの考
又る国より夕アとありぬ秋の甲
秋の日の風はさるるを晴るる
舟も舟も 晚鐘の中 浦の秋
舟も舟も 秋の風はさるるを
美忠也公のあはれに秋の考
秋の日は 霜降るるをさるる
美多秋の山又の月や本多の秋
いゝいゝ秋の屋上は 鐘の考
秋の風をさるるをさるる

文路 鳳州 花由 梅洲 羽洲 芥刪 二熊 壽守 其石 薰 蕙 露

大陽房を
り何ては不
に載せりい
一白の上を

秋

湯よりや秋をさるる染せり
何れも無事の内も外も秋の初
高き山をさるる秋の鐘の考
秋のあはれをさるるをさるる
秋の日のあはれに遠方の左口か
水も水も秋の日はさるるをさるる
山も山も秋の日はさるるをさるる
夕暮りも秋の日はさるるをさるる
月も月も秋の日はさるるをさるる
十月のやうな秋の日はさるるをさるる
十月のやうな秋の日はさるるをさるる

竹良 淡水 一聲 雨石 山蕎 壽谷 醉甫 琴颯 蓮州 梅年 鳳樓 千里

冬の部

十月の部 暖い日 桂木 桐

出づる 只十月の部

柳 僊
言 海

發句五百題 秋之部 終



